

(3) 学業不振児 (2)

① 在籍状況

氏名	性	所属
I・O	女	G小6年

② 現症の概要

ア, 学習意欲がなく, 動作がおそい。

イ, 学業面がふるわず困っている。

(成績が悪い)

③ 現症の起始・経過

ア, 小学校1年から, 斜視(右)になる。

(眼科医に原因をきいたが解らない)

イ, ふろに入ると腰がたてなくなったりした。

(2才のころ, かぜで小児マヒのように動かなかったことがあったがS医院で治癒する。)

ウ, 学習意欲がなく, 成績が悪い。

④ 診断, 指導の方針

ア, 知能・性格検査を実施する。

イ, 親子関係などの改善充実をすすめる。

ウ, 本人にあった学習のしかたを考える。

⑤ 指導の経過

ア, 田中ビネー知能検査 (IQ 74)

- 消極的, 洞察力乏しい。
- 一事にとらわれ, 柔軟性を欠く。
- 理解力, 抽象能力劣る。
- 被暗示性強く, 依存的である。

イ, 親子関係調査をして考える。

母…拒否 0 期待 5 不安 0 溺愛 5

子…干渉 0 溺愛 2 5

ウ, 環境適応検査は良好である。

エ, 内弁慶外みそで, 友だちと遊ばない

オ, 神経過敏, 依存的で学習嫌悪を示している。

※ 両親が拒否的・干渉的態度をとっているため劣等感が強く, 依存的で, 消極的態度をとっている。担任の協力が重要である。

(4) 学業不振児 (3)

① 在籍状況

氏名	性	所属
H・O	男	U小3年

② 問題の概要

ア, 成績が悪い。

イ, 学業不振の理由を知りたい。

③ 問題の起始・経過

ア, 幼稚園の時の知能指数は最優。

イ, 小学校に入ったら, 成績もかなりよいのではないかと期待された。

ウ, 評定2~3が半分もある。

エ, 2年の夏休みに学習塾に通わしたが向上のきざしはない。

オ, 3年の夏休みを利用して, 病院や関係機関に相談した。

④ 診断・指導の方針

ア, 知能・性格検査を実施する

イ, 親子関係などの改善充実をすすめる

ウ, 本人にあった学習のしかたを考える

⑤ 指導の経過

ア, WISC知能診断検査を実施する

- IQ 122 (優)
- 言語性, 動作性ともによい

イ, 性格診断検査を実施する

- 情緒不安定 5 依存的 5
- 温和, 理性的で社会性がある

ウ, 親子関係を診断する

- 拒否 5 干渉 45 盲従型 5
- 矛盾型で, その時の感情に左右されることは反省の要がある。

エ, 分娩(帝王切開)両親と別居1年余, 全身火傷, 農薬服毒, 頭部打撲など

※ 指導の最後に外傷的な疾病の多いことを聞く, 近視の発見, 脳波検査を受けるとのこと。学校との密接な連絡を必要とする。